

令和7年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 19	公益目的事業 19
主査名	大森宣暁 宇都宮大学教授	
研究テーマ	多様な人々の生活活動と交通行動の理解を通して夜間の都市と交通のあり方を考える	
<p>24時間化した現代の都市においては、人々の生活の質を向上させる視点から、「住む」、「働く」、「憩う」、「往来する」という都市社会の四要素を、時間軸を考慮してバランスよく配置することが重要な視点であるものと考えられる。しかし、従来の都市計画は、昼間の都市活動を主たる計画対象とし、夜間の都市活動が幾分疎かにされてきた感が否めず、人々が、安全・安心・快適に、夜間の活動に参加できる環境が整備されているとは言い難い。申請者らは、これまでの研究プロジェクト等において、夜の活動主体、夜の活動機会提供主体、夜の活動計画・管理・運営主体等、多様な関係者を交えて、人々の夜の生活活動における現状と課題等について議論を行ってきた。そして、人々の生活の質を向上させる夜間の都市と交通のあり方を検討する上では、人々の生活活動と交通行動との関係を深く理解することが、最も基本的で重要な研究課題であることを再認識した。</p> <p>以上の背景から本研究は、SNS や AI、オンライン活動が急速に普及・浸透した現代社会において、改めて多様な人々の生活活動と交通行動との関係について理解を深めることを通して、我が国の社会的文化的特性を考慮し、全ての人々が安全・安心・快適に夜間の外出活動に参加でき、生活の質を向上させる都市と交通のあり方を検討することを目的とする。特に、国内外の関連重要文献のレビュー、多様な人々に対するデプスインタビュー調査およびアンケート調査を通して、活動内容・時刻・場所・交通手段選択に関する意思決定プロセスを深く理解することに着目して研究を進める。また、夜間の外出活動に影響を与える一要素である、公共交通サービスレベルの異なる複数都市における公共交通オープンデータ（GTFS データ）を用いた、夜間のアクセシビリティ分析も実施する。</p> <p>研究の方法は、人々の生活活動と交通行動に関する国内外の重要文献および夜間の都市と交通に関する文献のレビュー、多様な人々（若者、高齢者、子育て世帯、障害者、インバウンドなど）の生活活動と交通行動、特に活動内容・時刻・場所・交通手段選択に関する意思決定プロセスを深く理解するためのデプスインタビュー調査、多様な人々の生活活動と交通行動、特に活動内容・時刻・場所・交通手段選択に関する意思決定プロセスに関するアンケート調査、公共交通オープンデータ（GTFS データ）を用いた、夜の帰宅交通の実態およびアクセシビリティに関する分析である。</p>		